

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

夕方、お母さんから電話があった。

「ごめんね。仕事でおそくなるから、ご飯だけたいておいてくれる。」

ぼくは「分かった。」と答えて電話を切った。ご飯をたくのは、何度もやったことがある。でも、ふと思いついた。おかずはなくても、みそしるくらいなら、ぼくにも作れるかもしれない。

なべに水を入れ、とうふを切り、みそをとかす。いつもお母さんがやっているのを見ていたから、かんたんだと思っていた。ところが、味見をしてみると、口の中がきゅっとなるほどしょっぱかった。あわてて水を足すと、今度はうすくなりすぎた。みそを足し、水を足し、気がつくとなべはみそしるでいっぱいになっていた。

九時すぎに、お母さんが帰ってきた。

「失敗しちゃった。」

ぼくは下を向いたまま、みそしるを出した。お母さんは一口飲むと、少しだけ目を丸くして、それからわらった。

「しょっぱいね。でも、あったかい。」

お母さんは、つかれた顔のまま、二はいもおかわりをした。

ぼくは、なべに残ったたくさんのみそしるを見た。明日の朝も、これを飲もう。そして、次はもっと上手に作ろう。お母さんが毎日していることが、少しだけ分かった気がした。

(この問題のための書き下ろし)

問一 「かんたんだと思っていた」とありますが、ぼくがそう思っていたのはなぜですか。「くから」につづくように、本文から二十字までで書きぬきましょう。

問二 「なべはみそしるでいっぱいになっていた」のはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

- ア 味を直そうとして、みそと水を何度も足したから。
 イ お母さんの分まで、たくさん作ろうとしたから。
 ウ 明日の朝の分も、作っておこうと思ったから。

--

問三 お母さんが、しょっぱいみそしるを二はいもおかわりしたのはなぜだと考えられますか。四十字まで書きましょう。

問四 物語の最後のぼくの気持ちとして、いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

- ア 失敗してはずかしいので、もう料理はしなと思っています。
 イ お母さんに作ってもらおうほうがいいので、次からはたのもうと思っている。
 ウ 失敗したけれど、次はもっと上手に作ろうと前向きになっている。

--